

知事メッセージ
(ワンヘルス施策について)

- 福岡県政をめぐる様々な問題を受けて、「県はいったい何をやっているのか」と、怒りや疑念、不安を抱かれたことと思います。

私自身、長く県政に携わりながら、変えるべきものを変えられなかったことを、重く受け止め、県民の皆様に対し、心からお詫びを申し上げます。ここから、問題を見つめ、変えていくことが、私の責任だと考えております。

- 今、皆様には改革の全容や現在地がわかりにくくなっているのではないかと思います。

そこで、「そもそも、なぜこの事業を始めたのか」という原点にある思いや、「今、何をしているのか」という改革の地図を発信してまいります。

- まずは、先日行政改革審議会に諮問いたしましたワンヘルス政策についてお話しいたします。

審議会での諮問内容の全文や資料も公開いたしますので、併せてご覧ください。

【そもそも、ワンヘルスとは？】

- SDGs は、「誰一人取り残さない」というスローガンから大きく広まりました。

ワンヘルスを、私なりに言葉にするなら、「すべてはつながり、すべてはかえってくる」という考え方だと思っています。

人・動物・環境の、健康も不健康もつながっていて、みんなで健やかに生きられる状態を目指そう。そのために私たちの日常の行動を見直そうという考えであります。

【福岡県がつくったもののなの？】

- ワンヘルスは世界的な取り組みで、人と動物の共通感染症など、社会のリスクを減らしていこうという活動が展開されています。WHOやG7においてもその推進が重要であると位置付けられております。

【なぜ福岡県でワンヘルスを広めようとしたの？】

- 2016 年に北九州市でワンヘルスの国際会議が行われ、活動を促進していこうという「福岡宣言」が出されました。私がワンヘルスというものを知ったのも、この時でした。

動物由来の新型コロナウイルス感染症が世界を襲ったのはその4年後でした。

私は当時、医療支援や経済対策などのコロナ担当副知事であり、その後、コロナ流行の真っ最中に知事になりました。

尊い命が失われ、健康、仕事、暮らし、学校教育まで甚大な影響を受ける現実を目の当たりにいたしました。「このようなことを、二度と繰り返してはいけない」と強く思いました。

次のパンデミックがいつ起きるのかは、誰(だれ)にも分かりません。

だからこそ、社会のリスクを少しでも減らしていくために、福岡県からワンヘルスを広げていきたいと考えました。

【なぜ一自治体である福岡県でやるべきなの？】

- 国際的な理念であっても、国だけで完結するものではありません。

むしろ、地域社会での「具体的な実装」が不可欠であります。

県は、国より住民の皆様の暮らしに近く、多くの人の行動変容につながる具体的な働きかけを行うことができます。

ミラノが食糧問題政策を、ロンドンが気候変動政策の先陣を切ったように、一つの都市が取り組むことで、国際的な広がりを生み出した例もあります。

特に、福岡県には都市が、農林水産業が、有明海などの沿岸環境が、大学などの研究機関が、医療機関が共存しており、理念を地域で実装するモデルとなると考えました。

さらに、福岡は、アジアの玄関口として、人も、モノも、さまざまな生き物も行き交います。

人と動物の共通感染症はアジア地域における発生のリスクが高いと言われております。

だからこそ、命を、健康を守っていくために、福岡は新たな感染症のリスクに、日本の中でも先頭に立って向き合わなければならないと考えました。

【予算が大きくなりすぎなんじゃないの？】

- 先進的な取り組みだったからこそ、手本となる事例がほとんどありませんでした。

理念を具体的にどう落とし込んでいくのか。試行錯誤しながら取り組んでまいりました。

そのような中で、ワンヘルスの知名度を高めるために、幅広い事業に「ワンヘルス」という冠をつけてきた経緯がございます。

例えば、イノシシによる被害から田畑を守る防護策の整備、あるいは築50年以上が経過し、雨漏りなどの劣化が進んでいた保健環境研究所、家畜保健衛生所の老朽建替えなどであります。

その結果、県民の皆様が疑問を抱かれることとなったと思います。

【今、ワンヘルス事業は怎么样了の？】

- 現在、ワンヘルス関連施策を行政改革審議会において第三者の立場から客観的に検証していただいております。

そのご提言をいただくまで、未着手のもの、あるいは着手済であっても可能なものについては事業を凍結いたしております。

必要性や妥当性を検証し、十分に説明できないと判断された事業については、廃止も含めて見直します。常に問い直す姿勢を持ち、聖域なく見直します。

【これから】

- 今回の一連の問題への対応を、福岡県政が次の一步を踏み出す出発点にしたいと思っております。

県政への信頼が揺らぐことによって、福岡県の発展を止めてはなりません。

厳しいご意見も、ご批判も、真正面から受け止めます。

そして、いつか県民の皆様は、「あのとき、福岡県政は変わった」と思っていただけのような改革を、一つひとつ積み重ねてまいります。